

各関係機関・団体長 様

愛媛県病害虫防除所長

病害虫防除技術情報（第 5 号）の送付について

このことについて、次のとおりお知らせしますので、御参照の上、防除指導方よろしくお願ひいたします。

記

1 情報の内容 イチゴにおけるハダニ類の防除の徹底について

2 現状と今後の対策

- (1) 1 月中旬の定点調査における寄生株率は、12 月に比べて減少し平年並となっているが、昨年度の同時期に比べ発生量は大きく上回っている（表 1）。また、1 月 6 日～1 月 22 日にかけて、県下 72 カ所で広域調査を行ったところ、全県での発生圃場率は 34.7%、寄生株率は 8.3%となっている（表 2）。なお、一部圃場では多発がみられ実害を生じている（図 1）。
- (2) 気象予報（1 月 28 日発表 1 ヶ月予報）では、気温は平年並～高いとされていることから、ハダニ類の発生にはやや助長的であるため、発生が確認されているほ場では早期に薬剤散布を行う。

3 防除上の注意

- (1) ほ場全体をよく観察し、早期発見に努め、発生が見られる場合は、早めに防除を実施する。
- (2) 薬剤が葉裏に十分かかるよう下葉を整理する。
- (3) 薬剤抵抗性が発達しやすいので、同一系統の連用を避け、ローテーション散布を心がける。
- (4) 薬剤の選択に当たっては、ミツバチや天敵昆虫への影響を考慮する。
- (5) 殺ダニ剤は、生育ステージ（卵、成幼虫）や感受性の低下により、防除効果が見られない事例を確認しているため、薬剤散布後には、必ず防除効果の確認を行う。

表1 定点調査におけるハダニ類の発生状況

	寄生株率(%)			
	10月	11月	12月	1月
本年度	9.8	12.6	18.2	5.5
昨年度	8.9	13.9	5.6	0.9
平年	4.7	4.4	2.7	4.9

調査時期: 各月中旬

表2 広域調査におけるハダニ類の発生状況

	調査圃場数	発生圃場率(%)	
		発生圃場率(%)	寄生株率(%)
東予	18	38.9	11.9
中予	28	28.8	6.7
南予	26	38.5	7.5
全県	72	34.7	8.3

1株1複葉100株調査

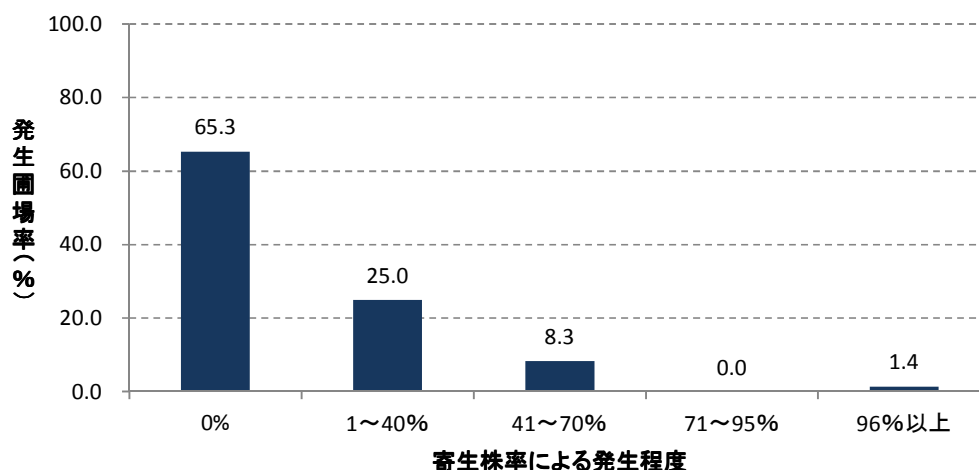


図1 イチゴのハダニ類発生程度別圃場率(広域調査)
発生程度の区分は、発生予察基準の調査実施基準による。

[参考資料]

県内のイチゴで発生するハダニ類は、ナミハダニとカンザワハダニである。両者の体長は、雌成虫で約0.5mmと小さく(写真)、葉裏に寄生し吸汁加害するため、寄生葉は葉緑素が吸汁され、カスリ状に白変する。

ハダニ類は、卵、幼虫、第1若虫、第2若虫と3回脱皮を繰り返し成虫になるが、ナミハダニの発育零点は約9℃で施設内では周年発生する。冬期には朱色の個体も見られる。適温の25℃条件では約10日で1世代を経過し、1頭の雌成虫が100~150個産卵するため、気温の上昇に伴い短期間に高密度になり危険性が高まる。特に、乾燥条件で発生が多くなり、寄生密度が高まると、葉や果柄などにクモの巣状の網を張って群生し、葉が枯死に至る場合もある。

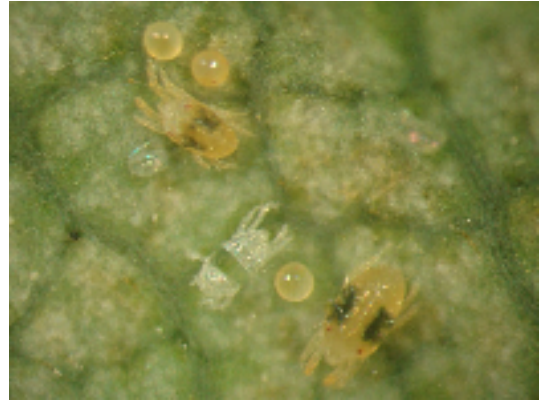


写真 ナミハダニ雌成虫と卵

薬剤防除に当たっては、ナミハダニではハウスの違いによる薬剤感受性の低下がみられており(表1、2)、ミツバチ・天敵昆虫への影響がないようにするため、薬剤の選定には十分注意する(表3)。

イチゴに寄生するハダニ類の薬剤感受性(農林水産研究所試験)

表1 イチゴに寄生するハダニ類の薬剤感受性(殺成虫) 平成27年度

薬剤名	希釈倍数	補正死亡率(%)					
		西条市	今治市1	今治市2	東温市	宇和島市1	宇和島市2
		ナミ	ナミ	ナミ	ナミ	カンザワ	カンザワ
マイトコーネフロアブル	1,000倍	100	100	100	100	100	100
ダニサラバフロアブル	1,000倍	0	95.8	8.9	3.5	100	100
スターマイフロアブル	2,000倍	-	97.4	0	11.0	100	100
カネマイフロアブル	1,000倍	75.1	18.4	3.2	100	100	100
コロマイト乳剤	1,000倍	84.3	25.5	0	81.9	100	100
アフーム乳剤	2,000倍	-	83.4	0	100	100	100
ダブルフェースフロアブル	2,000倍	-	-	-	-	100	100

注)ナミ:ナミハダニ、カンザワ:カンザワハダニ

表2 イチゴに寄生するハダニ類の薬剤感受性(殺卵) 平成27年度

薬剤名	希釈倍数	補正死亡率(%)					
		西条市	今治市1	今治市2	東温市	宇和島市1	宇和島市2
		ナミ	ナミ	ナミ	ナミ	カンザワ	カンザワ
マイトコーネフロアブル	1,000倍	20.3	0.9	12.6	41.8	49.0	34.5
ダニサラバフロアブル	1,000倍	45.1	59.6	3.9	0	83.2	69.3
スターマイフロアブル	2,000倍	-	100	37.3	3.3	100	100
カネマイフロアブル	1,000倍	89.8	60.5	73.3	74.2	77.7	84.4
コロマイト乳剤	1,000倍	59	43.8	36.9	17.8	51.2	53.6
ダブルフェースフロアブル	2,000倍	-	94.1	25.1	20.4	25.4	61.3

試験方法

殺成虫: ♀成虫を15頭ずつイチゴ葉片のリーフディスクに接種し、薬剤の希釈液をハンドスプレーで散布。48時間後に生死判定。1区3反復。
 殺卵: ♀成虫を15頭ずつイチゴ葉片のリーフディスクに接種し24時間産卵させる。♀成虫を取り除き、卵に対して薬剤の希釈液をハンドスプレーで散布。7日後に未ふ化卵数と幼虫数をカウント。1区3反復

注) 表中の数値はハウス単位で採集したハダニの検定結果であり、各地域の薬剤感受性を反映しているものではありません。

表3 イチゴのハダニ類に対する防除薬剤

薬剤名	希釈倍率	収穫前日数 /使用回数	ミツバチへの影響	天敵に対する影響					
				ミヤコカブリダニ			チリカブリダニ		
				卵	成	残	卵	成	残
コロマイト水和剤	2,000倍	前日/2回	1日	-	△	1	-	-	-
スターマイフロアブル	2,000倍	前日/2回	1日	-	-	-	-	-	-
マイトコーネフロアブル	1,000倍	前日/2回	1日	◎	◎	0	◎	◎	0
ダニサラバフロアブル	1,000倍	前日/2回	1日	-	◎	-	-	-	-
パロックフロアブル	2,000倍	前日/1回	薬剤が乾けば影響なし	×	◎	-	×	◎	-
コテツフロアブル	2,000倍	前日/2回	10日	-	-	7	-	-	-
カネマイフロアブル	1,000倍	前日/1回	薬剤が乾けば影響なし	◎	◎	0	◎	◎	0
アフーム乳剤	2,000倍	前日/2回	2日	×	×	-	×	×	-
ダブルフェースフロアブル	2,000倍	前日/1回	1日	-	-	-	-	-	-

注) 天敵に対する影響は、「日本バイオリジカルコントロール協議会」のHP(2015年10月作成・第24版)より引用
 卵: 卵に対する影響。成: 成虫に対する影響。残: その農薬が天敵に対して影響のなくなるまでの期間で単位は日数。
 天敵に対する影響は、◎: 死亡率0~25%、○: 25~50%、△: 50~75%、×: 75~100%(野外・半野外試験)。-は試験データなし
 表中の影響の程度及び期間は目安であり、気象条件(温度、降雨、紫外線の程度及び換気条件等)により変化する。